

附属札幌中学校「学校だより」

藤 房

北海道教育大学
附属札幌中学校

平成28年7月1日発行

No. 4

4月に新1年生、多くの新任の教職員を迎え、早くも3か月が経ちました。年度初めは、やや緊張した面持ちの生徒が多く見られましたが、今は、どの生徒も親しくなった仲間と共に楽しく過ごす姿が見られ、穏やかな表情、笑顔があふれています。これは、今期、各学年が実施した旅行・集団宿泊的行事の成果の表れです。行事を支え、参画していただきました保護者の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

さて、第I期の全学年目標は「1年間を展望し、新しい学年での明確な『自分自身の理想の姿』を描くことを重視する」、「新しい出会いを大切にし、学級のつながりを図ることを重視する」です。今期を締めくくる教育研究大会まであと数週間。学習を下支えするのは、日常生活と仲間との関わりといえます。生徒が仲間との関わりを積極的に築き、自分がすべきこと、集団のためになることの双方を考えて主体的、能動的に役割を果たそうとする日常の姿勢を促し、第I期の目標達成をめざしていきます。

第1学年 「自分たちで創りあげる2日間」～学校宿泊学習を振り返って～

第1学年主任 伊藤 雄一

5月20日（金）、21日（土）に1年生としては、初めての中学校生活での大きな行事となる学校宿泊学習を行いました。今年度の学校宿泊学習の目標は大きく二つありました。一つは、学級、学年の絆を深めること。もう一つは、あいの里の地域を知り、防災学習の一環として災害について考えること。もちろん、この二つの目標については、結果として予想以上に多くのことを学び、成果をあげることができました。特に、学級、学年の絆を深めることについては、この学校宿泊学習を通じて、学級、学年に「一体感」を生み出すことができました。

この「一体感」を生むことができたのは、第71期生の皆さんが「自分たちで創る」ということを大切に、試行錯誤しながら限られた時間で「よりよい」2日間を創りあげようという強い意志があり、最後まで諦めずに努力を重ねた成果だと思います。教師がつくったプログラムを「こなす」のではなく、やったことがないけど、目的を考え、できること、やったことがないけど挑戦してみたこと、第71期生112名が「信念」をもって準備し、活動したからこそ、お互いを支え合う、目標に向かって協力する「一体感」が生まれることにつながったと思います。

あとから聞くと、小学校のときは、リーダーをやったことがなかったけれどプロジェクト長に挑戦してみたという生徒もいました。フィールドワークでは、インタビューが苦手だけ



【新鮮なアスパラを調理するクッキングプロジェクト】

ど、何か質問しなければと思って、その場で考えて聞いてみたという生徒もいました。そのような少しの一步を踏み出すことが新たな自分との出会いになり、一人一人の成長へとつながったと思います。

また、プロジェクト活動への事前の準備の積極性や、フィールドワークでの好奇心の高さにも驚かされました。当日までの準備が間に合うのか、これは活動を盛り込みすぎているのでは、と心配することがありましたが、休み時間を割り、準備をするなどの姿が見られ、「自分たちで創る」というのは、このような姿だなと感じました。フィールドワークでは、何かを発見するとその意味をグループの皆で考え、予想し、「もしかしたら他にもあるかもしれない、時間もあるからここにも行ってみよう」と「自分たちで学びを創る」姿も見られました。このように仲間と協働し、一人一人の「優しさ」と「信念」が関わり合いながら理想を紡ぎだそうとする姿が学校宿泊学習後の学級、学年の成長した姿につながったと思います、今後の第71期生の活躍に大きな期待をしています。



【フィールドワークでの生徒の様子】

最後になりましたが、今回の学校宿泊学習では、事前登校日や父親委員会の花プロジェクトを含め、多くの保護者の皆様のご協力のおかげで、生徒にとって有意義な、そして、素敵な思い出となる学校宿泊学習を行うことができました。心より感謝を申し上げます。

「心から心へ」

学校宿泊学習実行委員長

1年B組

野村 南翠

「これからどのように生かすのか。」学校宿泊学習の最後の終了集会で、私が言った言葉です。その後の下校中に、ふと思いました。「これからに生かすって、私個人は具体的にどのようなことだろう。私は学校宿泊学習を通して何を学んだのだろう。」そう考えた中で一番初めに浮かんだのは、プロジェクト活動でした。私は学年プログラム委員会として、学年旗作成に当たって、自分たちの手がどんなに汚れても作り続けました。初めはみんなあまり乗り気ではありませんでしたが、各プロジェクト活動の様子を取材に来るプレスプロジェクトの人たちなどから、歓呼の声が多くあがり、もっとみんなの笑顔が見たいと、やる気に満ちてきました。ここで私は、相手の笑顔のために自分が努力することの素晴らしさを感じました。相手のために働く気持ちを大切に、これからの生活に生かしていきたいです。

第2学年 宿泊学習(OTALARN)を終えて

第2学年主任

新井

拓

去る5月25日(水)から1泊2日で、第70期生はOTALARNを行いました。OTALARNとは、「小樽で学ぶ」、「小樽を学ぶ」という思いを込めて生徒たちがつけた宿泊学習の呼び名です。二日間を通じて生徒たちは、この呼び名の通り多くのことを学び、個人としても集団としても一回り成長して札幌に戻ってくることができました。その様子を紹介したいと思います。

まずは、1日目。前日から心配されていた天気は出発集
会が始まる頃にすっかりよくなりました。大きなテルテル
坊主と第70期生の元気のよさが雨雲を吹き飛ばしたの
だと思います。バスの中では、まずは「シートベルトを締
めよう。」といった互いに注意し合う言葉のやりとりがあ
り、その後にはバスレクでの笑い声があふれました。やる
べきことはやり、楽しむところは楽しむ、そんなけじめの



【自然の中で、仲間との楽しく美味しい夕食】

ある姿が見られたバス内でした。バスが最初に到着したの
は小樽の市場です。日頃、市場での買い物などしたことがない生徒にとっては新鮮だったようで、初め
は緊張しながらお店の人に話しかけていました。しかし緊張もつかの間、これまでに培った人間関係形
成力を発揮し、お店の人との交流を通して小樽の食文化について学びました。中にはおまけしてもらっ
た班もあったようです。1日目のメインの活動は炊事です。ミシュランプロジェクト（炊事）係が中心
になって市場で買った材料で夕食を作ります。班での団結力が最も問われる場面です。役割分担をしな
がら慣れない料理や火起こしに一生懸命取り組む姿が見られました。中にはこの日のために家で実際に
作って練習してきた生徒もいたようです。自然の中で友だちと食べるご飯が美味しくないわけがありま
せん。あちこちから「美味しい！」という歓声が上がっていました。夕食後には片付けが待っています。
鍋についた炭を落とすために一生懸命磨く生徒。かまどの燃えかすをきれいに掃除してくれた生徒。ご
みの分別を丁寧に行ってくれた生徒。時間がかかりすぎたという課題は残りましたが、あちこちで生徒
の頑張る姿を見ることができました。1日目の最後は OTALEADER（班長）係が企画したナイトレク
です。黄金色に輝く火の神様が降臨し、キャンプファイヤーは大いに盛り上がりました。何事も皆で楽
しむ第70期生の長所が存分に発揮されました。

2日目の主な活動は小樽での自主研修です。カルチャーナビゲーション（文化）係を中心に班ごとに
歴史・建物・金融・経済・観光・芸術・地理・交通・文学・産業などのテーマについて学びを深めます。
事後には、調査した内容を模造紙にまとめて、ポスターセッションを行いました。事前に調べたり、実
際に赴き見学したり、現地の方にインタビューしたり、
様々な方法で小樽の文化についての理解を深めることが
できました。また、小樽と比較することで、自分たちが
住む札幌についても考えるきっかけになったようです。
宿泊学習の最後は LG（生活）係企画のアクティビティ
ーです。広場で「ケイドロ」と「だるまん転んだ」を
行いました。100人を越す大人数で行う「だるまん
が転んだ」は壮観でした。あとは札幌に戻るだけです。



【キャンプファイヤーを囲んでのナイトレク】

ヘルサポ（保健）係の健康チェックのお陰で、大きな病
気やけがもなく、全員無事に帰ってくることができました。（とても疲れたようですが…）

最後に、解散集会の生徒代表の言葉を紹介します。「体験してこそその学びがあった。」「さらに上を目
指して頑張っていきたい。」「当たり前が磨かれた。」「社会性と協調性が高まった。」「人を助ける優しさ
が見られた」「全員でやり遂げる楽しさを感じた。」OTALARN の成果と課題を糧に第70期生がよりよ
い学年・学校を創り上げてくれると信じています。

宿泊学習を終えた今、第70期生は、その思い出を友達と話すことがよくあります。その中で私がいっつも思うのが、「学年の輪が形づくられてきている」ということです。その「輪」というのは、クラス内での人と人とのつながり、あるいはクラスを超えたつながりのことです。

私たちは宿泊学習に、小樽の文化を学ぶ、個人や集団の在り方を考える、というねらいをもって臨みました。そのねらいを達成するために共通して必要なのは、「つながりを大切にすること」だと思います。実際、人とのつながりを強められた宿泊学習では、学年に連帯感が生まれ、思いを共有することができたと思います。しかし、その成果とともに課題が見つかったのも確かです。今後はその課題を達成するために、宿泊学習で得た連帯感を生かして、よいつながりをもった輪を広げ、理想の学年に近づけるようにしたいです。員の皆様ありがとうございました。



韓国への訪問を終えて

訪問団引率 第3学年所属 山口 修司

6月8日から12日までの3泊4日で、予ねてよりメール等で交流を行ってまいりました韓国の梨花女子大学附属金蘭中学校を訪問してまいりました。2年前は交流自体が中止となり、今回も梨花中の生徒の来日は震災の影響により見送られ、今回、4年振りによりやく実現しました。本校生徒もメールのやりとりを重ねるうち、まだ見ぬ隣国の友だちに会いたい、という気持ちが日増しに高まっていく様子が見て取れました。海外へ初めて渡航する生徒も少なくなかったため、不安感もあったようですが、実際に韓国の地を踏むと自然と気持ちが高揚し、その気持ちが期待感に変わっていきました。実際の生徒同士の交流は傍から見ていて、大変微笑ましく、また双方の生徒たちの今後の大きな成長や両国の未来における更なる発展を期待させるものでした。



【韓国梨花大学附属中学校にて】

滞在2日目には、梨花中を訪問し、韓国人生徒のパートナーとともに実際に現地の授業を受けました。韓国語はもちろん、英語の授業でも理解する、自分の考えや思っていることを表現することに大きな困難を感じ、戸惑う様子があちらこちらで見られました。しかし、生徒たちは「何とか理解しよう」、「どうにかして伝えよう」と前向きに取り組んでいました。

3日目にはパートナーファミリーとの交流で、基本的には一人一家庭にお邪魔し、様々なソウルの場所を案内していただいたり、屋台やレストランで食事をごちそうになったりと、半日、行動を共にすることを通して、少しずつ相手のことが分かり始め、自分のことも伝えられるようになっていき、ホテルへ帰ってきたときには古くからの親友のように打ち解けた様子で、どちらの国も若者に垣根はないのだと感じました。

そうした生徒の様子を含め、今回の研修を通して私は改めて「異文化理解」について考えました。まず、異文化理解の第一歩は、「違いを知り、受け入れようとする事」である、ということです。自分と他者は大なり小なり、異なる点が必ずある、という認識を出発点とし、何が違うのか、どのように違うのかを探り、その違いを楽しむことが大切なのではないかと考えます。今回、生徒たちは、料理や食事の作法、学校の規則や授業の内容・方法など、様々な違いを目の当たりにしました。それらに対して興味と驚きをもち、楽しみながら受け止める姿が見られました。

外国人だけではなく、日本人同士でさえ、一人一人の外見や性格、生活習慣、与えられた能力や特性、価値観や考え方が異なります。そうした互いの違いを知り、ときには譲歩し、ときには譲歩してもらいながら、互いに理解し合おうと努めることが重要なのではないのでしょうか。その先に身近な人と協力すること、隣の国と良好な関係を築くこと、そして平和な世界をつくること、がつながっているのではないかと考えます。

もう一つは、「人の気持ちを考え、優しくすること」です。当たり前のことですが、困っている人の存在に気付き、できることがあれば助けるなど、相手の立場や気持ちを思いやり、自分がされてうれしい行動を相手に対しても行うことが異文化理解の基本だと感じました。今回の研修を通して、生徒のみならず、私たちも多くの方々のご協力やご支援のもと、貴重な経験をさせていただくことができた実感しています。特に生徒たちは、先方の先生方、生徒たち、その保護者の方々、現地の旅行業者やホテル・レストランの従業員など、多くの方々からの熱烈な歓迎を受け、大変親切にいただきました。

日本にも「おもてなし」という言葉があり、本校でも大切にしている伝統の一つです。この「おもてなし」という概念は、相手のことを慮り、敬って大切に接する気持ちから生まれるものだと考えます。韓国で私たちが触れた温かい心遣いも同様で、どの人との関わりにおいても忘れてはならないものだと感じました。

総じて、「異文化理解」とはつまり、人として自分はどうかあるべきかを考えることや、他者とどのように関わるべきかを考えることであり、極めて根本的、かつ基本的なことだと気付きました。そして、身近な人たちと自分との違いを知り、それらを理解しようとすることや、身近な人に注意深く目と耳を向け、それぞれの立場や思いを理解しながら行動することが大切であり、それが国際交流や異文化理解という大それたことのように聞こえますが、良好な人間関係を築き、平和に楽しく過ごすための鍵ではないかと思えます。

保護者の皆様をはじめ、本研修の実現に関わり、多くの方々に協力いただき、誠にありがとうございました。今回、韓国を訪問した生徒たちが、現地で学んだことを身近な仲間だけでなく、学級や学年、学校全体に広め、還元するとともに、研修に参加できなかった生徒も、もっとも身近な隣国である韓国について興味をもち、理解を深め、良好な関係を築くための第一歩を踏み出してほしいと願っています。



【日韓合同での英語の授業の様子】



【親しくなった韓国の梨花附中の生徒と本校生徒】

7月

□今月は第Ⅰ期のまとめの月となります。お子様の成長した姿を、授業参観や学級懇談会でご覧いただき、学びのシラバスへの評価の記入をお願いいたします。
□研究大会へのご協力をお願いいたします。

日（曜日）	行事等の予定	最終下校時刻
1（金）	得点通知表配付 ⑥委員会・専門局会	16:50
2（土）	中学校体育の日 部活動可	
3（日）	中学校体育の日 部活動可	
4（月）	事前研究会のため2時間授業（給食なし） 下校後、15:40まで家庭学習	11:15
5（火）	⑥藤華祭PJ活動	16:50
6（水）	①～③3年英語力調査 研究日12 ⑥学活 合唱祭（指揮者、伴奏者、合唱曲決め）	16:05
7（木）		16:50
8（金）	附属小学校研究大会のため家庭学習日（全日）	
9（土）	附属小学校研究大会 中学校体育の日 部活動不可	
10（日）	中学校体育の日 部活動可	
11（月）	職員会議 8	15:05
12（火）	PTA 役員会	16:50
13（水）	⑥藤華祭PJ活動 研究日13	16:05
14（木）	昼清掃 放）登下校マナー集会	17:00
15（金）	放）保健委員会	16:50
16（土）	父親委員会校舎環境整備活動 部活動不可	
17（日）	中学校体育の日 部活動可	
18（月）	海の日 中学校体育の日 部活動可	
19（火）	⑥学活 研究大会に向けて 昼清掃 放）全校集会	16:50
20（水）	研究日14	16:05
21（木）		16:50
22（金）	研究大会特別日課 ⑤⑥大掃除・会場設営	15:10（2,3年） 16:45（1年）
23（土）	部活動不可	
24（日）	部活動不可	
25（月）	研究大会特別日課	11:40
26（火）	平成28年度 教育研究大会	12:55
27（水）	夏季休業前集会 前期末テスト範囲発表	12:00
7月28日（木）～8月24日（水） 夏季休業日		